令和３年度　第２回　学長選考会議議事要録

日　　時：令和３年７月３０日（金）１０：３０～１１：４６
場　　所：オンライン会議（Teams）
出　席　者：種田委員（議長）、尾﨑委員、小野寺委員、川上委員、沼田委員、藤川委員、
　　内田委員（人文社会科学部長）、荒川委員（教育学部長）、
　　増澤委員（工学部長）、戸嶋委員（農学部長）
欠　席　者：田内委員（理学部長）、西川委員（全学教育機構長）
監事監査規則第 9 条第 2 項による出席者：中根監事

議　　題
　審議事項
　　１　学長の業績評価について
　　２　その他

議　事　概　要

Ⅰ　議事要録の確認
　議長から、前回の学長選考会議議事要録について、既に大学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

Ⅱ　審議事項
　１　学長の業績評価について
　　議長から、学長の業績評価について、本日は学長によるプレゼンテーション及び質疑応答、委員による意見交換を行い、後日、各委員からの評価コメントを提出いただき総合評価書の原案を作成する。その原案を各委員へ送付し、いただいた意見を参考にしたうえで、最終決定した総合評価書を議長から学長へ伝達するとともに、大学ホームページ上で公表するとの説明があった。

　（１）学長のプレゼンテーションについて
　　学長から配付資料に基づきプレゼンテーションが行われた。

　（２）学長との質疑応答について
　　学長と学長選考会議委員による質疑応答がなされた。

【主な質疑応答】○委員　●学長
○　県内での共同・受託研究で良い結果が出ている一方、同規模他大学と比較して人件費比率がやや高く、教育経費はわずかに低い割合となっている。高くついた人件費分が教育経費に回し切れていないと思われ、短期的に解決できる問題ではないが、今後の抱負をお聞かせいただきたい。
●　第４期中期目標・中期計画期間中に人件費を適正な割合とするため、具体的な数値目標を掲げている。ただし、単純に人を減らすのではなく、教育・研究の質を下げずに人手を減らす仕組みも併せて検討する必要がある。本学の重要な課題である

と認識しており、今年度中には適正化に向けた実施スケジュールをまとめる予定である。

○　新型コロナウイルス感染症の影響により、学長として本来やりたかったができなかったことや十分な成果を出せなかったことがあればお聞かせいただきたい。また、逆にプラス面での影響があったことやマイナス面での今後の課題についてもお聞かせいただきたい。

●　国際交流はもっと力を入れたかったが、新型コロナウイルス感染症の影響で留学生の派遣・受入れが事実上止まってしまった。しかしながら、グローバル教育センターがオンラインによる国際交流プログラムを企画・実施してくれたおかげで、新しい国際交流の手法が見えてきた。プラスの面として、危機的状況においても教員が結束し、短期間で努力してくれたおかげで、遠隔授業という新たな手法でも学生の満足度や教育の質を下げずに行えた点を挙げたい。オンラインに適した授業であれば水戸・日立・阿見のように離れたキャンパス間でも授業が行えるということであり、教育の幅が広がると思っている。マイナスの面として、学生間の横のつながりが減ってしまったのは大きな課題だと思っている。感染が収まっていない状況で対面を増やすのはコントロールが難しいが、学生間のつながりができる機会を作る等、課外活動も含めて今後解決していきたい。

○　コロナ禍でも教育面は成果が出ているように思えるが、研究面での卒業論文や修士論文等はどのような影響があったかをお聞かせいただきたい。

●　学生の研究活動は、できるだけ対面でできるような基準で整備を進めてきた。卒業論文や修士論文等に影響が出ないように各学部・研究科の指導教員も力を入れてくれていたので、特に支障があったという情報は上がってきていない。研究成果としての論文に影響があったか等の具体的なデータはないが、問題があれば今後対処していきたい。

○　イバダイ・ビジョン２０３０に連続性のある学びとして「中高大接続」とあるが、具体的な内容をお聞かせいただきたい。

●　本学へ入学する時点で、ある程度キャリア意識がはっきりしている学生は約６割おり、早い学生は中学校のうちに将来を見据えているというデータがある。こういった学生のキャリアを実現させるためには、今までの入試に力を入れた高大接続だけでなく、大学でどういったことを学び将来を実現させていくかという観点を入れて、中学校のうちからフォローしていく必要があると考えている。まだ具体的なことは決まっていないが、今年度は県内高校の校長宛に「ディプロマ・ポリシー達成度に注目した学修成果の把握について」という本学の論文を送り、大学での学びの可視化の有効性を伝えた。こういった観点での連携や本学附属学校園で学ぶメリットを活かした連携等も行っていきたい。

○　アントレプレナーシップ教育プログラムは非常に注目しているが、学内での起業への支援についてお聞かせいただきたい。

●　全てのサポートを把握している訳ではないが、学生地域参画プロジェクトで起業的な内容を支援していく可能性はある。また、学長リーダーシップ経費で枠組みを決めて学生に働きかけることもできると思っている。

○　ダイバーシティを活かす社会作りに貢献するということで、大学では女性教員を増やす努力をどのように行っているかをお聞かせいただきたい。

●　教員採用では、女性教員や外国人教員の採用にインセンティブを与え、各学部でも公募段階で常に考えてもらっている。また、今年度の数字だが学長特別補佐７名中４名が女性であり、大学運営体制でも女性参画を意識している。

（３）業績評価に関する意見交換について
学長選考会議委員による意見交換が行われた。

【主な質疑応答】○委員　●議長・事務局

○　ＢＹＯＤの導入というオンライン教育を意識した体制作りが進んでいたことで、コロナ禍という危機的状況でも他大学に先んじて質の高い遠隔授業の準備が行えたのだと思われる。遠隔授業でも学生の満足度が高く、学習の理解度が上がっているのは大変評価できる点である。

○　国立大学法人法の定めであることは理解しているが、学部長として大学運営に関わっている身としては、評価や意見が難しい部分がある。

●　学部長としてではなく、教育研究評議会から選出された学長選考会議委員として評価をお願いしているが、不都合があるということならば学長選考会議であらためて議論を行う。

２　その他
次回は１月の経営協議会にあわせて開催予定。